

■平成 23 年度 第 2 回長浜城歴史博物館協議会 会議録■

日時：平成 24 年 2 月 20 日（月）13：00～

会場：長浜城歴史博物館 地階研修室

<出席者> 委員：大橋、嶋田、小和田、木村、片山、草野、西川（順不同・敬称略）
長浜城：大音、太田、森岡、佐々木、西原、南部、富岡、福井

<館長挨拶>

本日はお忙しい中をありがとうございます。

皆様のご協力のもと、今年度 1 年間、長浜城歴史博物館の運営および事業を進めてきた。

本日は、下半期の実績および新年度の計画について、協議をお願いしたい。

○長浜城歴史博物館条例第 10 条の 2 により、議長に大橋会長を選出した。

<議長挨拶>

限られた時間ではありますが、皆様のご協力をお願いいたします。

<議題>

1) 展示見学・説明について

西原：特別陳列「湖北の王たち 坂田郡」について展示説明を行った。（2 階展示室）

福井：企画展「長浜ゆかりのひな人形」について展示説明を行った。（3 階展示室）

<委員講評>

木村委員：大変興味深く拝見した。鴨田遺跡は有名な遺跡であるが、実際に遺物等を展示してこそ、その重要性が伝えられると思う。湖北地域にとって、鴨田遺跡がいかに重要な遺跡であるかを、今後も発信していただきたい。

また、雛人形の展示では、砂千代の生活の一端を窺うことができた。雛人形として、あれだけの資料が残っているのは、素晴らしい。繊維関係の資料は、保存が難しいが、充分気を付けていただきながら、今後の展示活動を期待したい。

小和田委員：長浜から他の地域の土器が出土しているということを知り、当時の物流について、考えるきっかけとなった。越前若狭とのつながりや大陸との密接な関係性が分かり、湖北の古代史の興味深さが窺えた。

雛人形の展示では、直弼の娘の愛用品や調度品がしっかり残っていることを知った。布製品の保存処理については、今後の課題となるだろう。

嶋田委員：鴨田遺跡や川崎遺跡など、発掘調査が行われていた当時のことを知っているが、相当の苦労があったと聞いている。また、大通寺の宝物については、それまできちんと管理ができていなかったものを、博物館が中心となって整備したと聞いている。

片山委員：展示を見せていただき、「博学連携」の重要性を実感した。

西川委員：博物館の展示を見る度に、長浜の歴史の奥深さ、凄さを実感する。

地域の子どもたちの中にも、地元の歴史に大きな関心を抱いている子は多いと思うので、上手く情報発信を行って欲しい。雛人形の展示を見せていただき、娘を思う親心の大切を、改めて感じる事ができた。

大橋委員：副読本などを活用して、長浜の歴史の素晴らしさを伝えて欲しい。

発掘調査の苦労話などを子どもたちに伝えることも有効ではないか。

雛人形や調度品を見せていただき、改めて保存状態の良さを感じた。このような由緒ある資料が長浜にも残っていることを、何らかの形で、子どもたちに還元できればと思う。

2) 平成 23 年度下半期実績および平成 24 年度事業計画について（博物館・友の会）

○西原、福井が資料に基づき説明を行った。

木村委員：毎回この会議で発言していることだが、長浜城は、少ない職員数の中で、県立博物館以上の活躍をされていると思う。歴史を「啓発」する活動も重要であるが、その基となる「研究」の時間は取れているのか心配になる。

友の会事業について、北近江歴史大学と湖北学講座の差別化についてお聞きしたい。また、新聞等によると、江・浅井三姉妹博覧会に相当のお客さんがあり、その収益を市に寄贈されたというが、長浜城の運営にも役立てられるのか。

福井：北近江歴史大学、湖北学講座の開催目的等について説明。

太田：博覧会の収益金は、次の「長浜 戦国大河ふるさと博」の運営に役立てられる。

会場の一つである賤ヶ岳古戦場の整備にも活用すると聞いている。長浜城としては、今年度の収入はおよそ 7,800 万円（例年は 4,000 万程度）。今回は、博覧会主会場ではなかったため、そこまで大きな収益があった訳ではない。

また、新年度予算については、ほぼ要求通りつけていただいたと思っている。

大橋委員…収蔵庫に関する要求はあったのか。

太 田…現在、友の会とも協議をしているところである。

木村委員…収蔵庫はもう満杯になっているのか。市町合併で、地域が大きくなったが、地域で資料を管理するのは難しい面がある。博物館にとって「収蔵（市民の貴重な資料を預かる）」は、大きな分野であるので、今後の方向性をしっかりと見据え、これからも継続した要求をお願いしたい。

太 田…長浜市の歴史文化施設における収蔵庫の不足は、大きな課題である。

個人でお持ちの資料も公的な性格を持つものが多い。例えば、江戸時代の庄屋文書等は、その地域にとっては貴重な資料であり、引き継いでいかねばならない。合併前の旧町が持っていた公文書も、管理が徹底されていないのが現状である。

永久保存文書も、恒久的な収蔵庫で保管されている訳ではない。埋蔵文化財にしても同じである。

これらの歴史資料をどう守っていくのかが課題であり、そのためにも「市の蔵」が必要だと考えている。現在、内部調整を行っているところである。

嶋田委員：今回の合併によって、各村が持っていた史料はどうなったのか。

整理をされないまま破棄されているものもあるのではないか。

太 田：残念ながら、昭和の大合併時代の資料は、ほとんどが破棄されている。

最もよく残っているのは、旧長浜町関係の文書。これは郷土史家であった中村林一氏の大きな功績である。他に大郷村の西邑仁平氏関係の文書もあるが、市の働きかけというよりも、個人の功績によって貴重な資料が保管されてきたといえる。

3) 長浜市歴史文化施設における問題点と方向性について

太 田：現在、長浜城歴史博物館は市内 10 施設を所管している。

歴史文化施設の機能は、①展示・公開、②伝達・普及、③収蔵・保存、④研究であるが、③と④については、業務として理解してもらいにくい。地域の歴史は地域の履歴であり、地域間競争が進んでいく中、長浜市がどう個性を打ち出していくのか。それには、「歴史」が大きな役割を果たすと考えている。歴史を通して、相対的に生きることの大切さを伝えるのが我々の役目ではないか。

また、市政の課題を見つけ、それに即した展示活動を行っていくことも大切である。現状の課題としては、①新長浜市史の必要性 ②市民との協働（市民参加）③学校教育との連携などがあげられる。

②については、多くの市民団体があり、それぞれの団体には特徴がある。市民にどこまで関わってもらえるのか、その市民団体が自立的な組織となっていくには市がどう関わっていくのかなど、バランスのとれた施設運営を目指したい。

現在は、民間団体との調整に時間を費やすケースもある。

③については、学校の授業において、博物館の活用が少ないのが現状である。日本や世界の歴史を、地域の歴史から見つめ直すという発想を持ち、そのためにはどのようなカリキュラムを組めばよいか、現場の先生との交流が必要である。

木村委員：この問題は、文化行政に携わる者にとって重要な課題である。

例えば、市役所の職員や教員の中で、実際に博物館に足を運んでいる者はどれくらい存在するのか。これは、市職員として、長浜の歴史・文化に対し、どれくらいの興味や関心、理解を持っているのかということの表れであると思う。

我々、博物館協議会の委員も発信していくことが大切ではないか。

草野委員：観光ボランティアガイドとして、フローティングスクールの子どもたちを博物館に案内することが多い。事前に先生方が下見をされているが、全ての先生に自分の目で見ていただき、子どもたちへの指導を行っていただきたいと思う。

小和田委員：地元の小中学生が、地域の歴史を学ぶ際、博物館が果たす役割は大きい。

子どもたちが授業の一環として博物館を訪れることができるようなルール作りが大切。副読本は、子どもたちにとって有効なものであるので、学校と博物館が協力して作成できるようなプロジェクトを立ち上げることも必要ではないか。

嶋田委員：地域における公民館活動も停滞してきている。以前は、地域の公民館を核として、地域の歴史を学ぼうとするグループがたくさんあった。こういった盛り上がりは、非常に大切だと思う。

片山委員：歴史の授業の中に、地域の歴史をどう組み入れるのかというのは、教員の資質も関わっている。どうしても、「教科書を教える」ことに重点を置きがちで、メリハリのない授業となってしまう。

大音館長：一般の歴史と足元の歴史（＝地域の歴史）を結び付けて考えることが必要ではないか。地域を見つめ直すきっかけとして、今年度は郷土の歴史をテーマとした自由研究コンクールを実施した。

子どもたちの「まとめる力」や「プレゼンテーション力」を育む、とてもいい機会になったと感じている。

大橋会長…これもちまして、本日の議事を終了します。

慎重にご審議いただき、いずれも議案どおり決議いただきました。

ありがとうございました。

4) 新規購入資料の内覧

- 小堀遠州書状
- 北国街道行程図巻
- 籠手田安定等書状 江龍清雄宛